



土俵に飾られた八幡幣を持ち、俵の上で突き上げられる。

米田 根城相撲 伝統相撲で豊作祈願

9月20日(日)は、米田地で根城相撲が開催されました。粕毛・大沢・藤琴・中通・北部地区では、同日に各地区運動会の開催があり、毎年日程がかぶることが多いというところで、歴史ある伝統行事でありながら、町内でも見たことのない方もけっこういらっしやるとか。記者も町内の方に申し訳なく思いながら祈願の踊りをされていました。

かわい子子ども相撲あり、会場大爆笑の初っ切りあり、怪我也多いと聞いていた大人の相撲は、迫力。最後には、みなさん土俵のまわりで、豊作祈願の踊りをされていました。



徳島や東京、アメリカからも参加！



1対5の取組が始まってしまい、行司さんお手上げ～！の場面も。



応援も大盛り上がり！



お屋には、各家庭のきりたんぼ鍋。



豊作祈願の相撲は、いつまでも決着がつかず「来年に持ち越し！」。



幼稚園児のボクも相撲したよ！

5～6年前のこと、岩手からいきなり来て、根城相撲に飛び入り参加した人がいたそうです。根城相撲では、獅子舞の頭を神様として奉っています。その人は、その獅子神様の頭を見て、「これだ、この獅子が夢に現われて自分を呼んだんだ。それで今日ここに来たんだ」と言うので、聞いた人たちは「ちよっとおかしな人が来てしまった」と思ったそうなのですが、話を聞くうちに、どうやら本当に獅子神様の夢に見てやってきたらしいとわかりました。

その人は相撲をとり、怪我もなく帰ったそうです。百年の歴史ある奉納相撲では、不思議なこともあるのかもしれない。

獅子神様の 不思議な話





桶職人の石田さんに プチ弟子入り!?

プラスチックの洗面器なんて無かったころ、藤里町内だけで8人もいたという桶屋さんも今では、石田千代治さんだけです。88歳、米寿を迎えられた石田さんに、桶っぽい小さな入れ物をつくらせてください！とお願いしました。結果、大きな刃物での削りや竹の加工など、ほとんど石田さんにやっていただくことに……熟練の職人技術、すごいです！

長さ1メートルもある「正直台」(かな)を抱える石田さん。



①直径に合わせた「木割」で木を割る。②「木型」で丸さを測る。③胸当てを固定し、外側は「そとせん」、内側は「うちせん」で削る。④仮止めの針金をはずし、⑤竹の「たが」をはめて固定。⑥木は堅いので、刃物の扱いは慎重に。⑦完成！ありがとうございました。

石橋談義

全国的に空家問題が論じられて久しい。過疎減少とともに決定的な対策がないことを、地方に住む私どもは痛いほど感じている。将来のことなど考える余裕もなく、子どもたちを次々と都会に送り、やがてまた田舎へ帰るだろうと微かな期待をもったが、それも今は夢物語になっていく▼筆者も多少事情は違うが、老夫婦二人暮らしでこの地に縋みついていくが、将来は誰がこのおんぼろ家に住むのか全くその構想はない。いつそ家、屋敷を売るか、どこかへ寄付するかと思っても買い手も寄付受けるものもない。近くの老夫婦たちにもその将来を尋ねても「どうにかなるべえ」でその先がみえてこない▼これは、わが国の大失政であることは事実だが、その責任を今更問うても問題の解決はない。少子化が進み、地方に仕事場がなくなった今、国では新政策として「地方創生」を掲げ、専門家や有識者、各種会議等で知恵を絞っているが、病み続けた半世紀の即効薬はない筈だ▼それよりも、この町に生まれ育ち、諸事情で他地域の施設等で暮らしている高齢者たちに、空地や空家を利用して新施設を作ることが最も効果的だろう。たとえば「老人の町」といわれても、少々だが人口増となり、若い人たちの職場も増え、当の高齢者の拠所にもなる筈だ。(F)

石橋談義

全国的に空家問題が論じられて久しい。過疎減少とともに決定的な対策がないことを、地方に住む私どもは痛いほど感じている。将来のことなど考える余裕もなく、子どもたちを次々と都会に送り、やがてまた田舎へ帰るだろうと微かな期待をもったが、それも今は夢物語になっていく▼筆者も多少事情は違うが、老夫婦二人暮らしでこの地に縋みついていくが、将来は誰がこのおんぼろ家に住むのか全くその構想はない。いつそ家、屋敷を売るか、どこかへ寄付するかと思っても買い手も寄付受けるものもない。近くの老夫婦たちにもその将来を尋ねても「どうにかなるべえ」でその先がみえてこない▼これは、わが国の大失政であることは事実だが、その責任を今更問うても問題の解決はない。少子化が進み、地方に仕事場がなくなった今、国では新政策として「地方創生」を掲げ、専門家や有識者、各種会議等で知恵を絞っているが、病み続けた半世紀の即効薬はない筈だ▼それよりも、この町に生まれ育ち、諸事情で他地域の施設等で暮らしている高齢者たちに、空地や空家を利用して新施設を作ることが最も効果的だろう。たとえば「老人の町」といわれても、少々だが人口増となり、若い人たちの職場も増え、当の高齢者の拠所にもなる筈だ。(F)



十五夜・お月見

9月27日は中秋の名月でした。夜には雲も晴れ、きれいな満月を見ることができましたね。月が新月から満月になるまでに十五日かかることから、満月のことを十五夜というそうです。

お月見ではどうして、すすきと団子を飾るのでしょうか？ 江戸時代ごろから十五夜は収穫祭として親しまれており、すすきは稲穂の代わり、団子は収穫への感謝を表しているそうです。藤里ではほかに、栗、山ぶどう、あけび、コスモスなどを飾るという方もいらっしゃいます。



手を合わせて、月を拝みました。

聞き書き 第6回

農家
端家・小山ミチさん



泣いたあとには、必ず笑うことがある。

毎日、父のいる病院へ。

ここ端家で生まれました。6人兄妹だけ3人は亡くなつて、3人姉妹の長女だ。私の人生だば、いろいろだあ。複雑だったし、漫画みたいなもんだな。

父親は、小学校入る前に戦争に行つて、それで1年生の時に戻つてくると、結核になつて入院して、4年生のときから11年間介護したんだ。当時は藤琴に柴田病院つてあつて、毎朝そこから学校に通つたの。母親は畑仕事忙しいから、看病は私の役目。小さな病室の隅に置いていた小さな鍋と七輪でご飯を炊いてあげて、魚を買つては煮たり焼いたりして食べさせて。

学校で勉強できたのは、午前中だけ。午後はまた食料を背負つて、病院に行くから。家から病院までは1時間半、それは遠かったよ。お盆も正月もなく、毎日通うの。みんなきれいな服を着て出かけるのを、病院から見えて泣いたこともあつたね。でも、父親と話すのがうれしかったから。山のこと、川のこと、いろいろ教えてもらったんだ。そういうことは、今も実践している。

辛かった家での時間。

その頃、家を仕切っていたのは、祖父の後妻。厳しい人で、

少ししかご飯を食べさせてくれなかった。だから、いつもお腹が空いて、雑草をよく食べていた。あぜ道のスカンコは、新聞紙に包んでいった塩をかけてね。そうして、お腹を満たしていた。私に赤ちゃんができてからも、あまり食べさせてくれなかった。魚の切り身も、一切れを3等分した量だけ。あとは、漬物とか梅干し。母乳を出すにも栄養が足りない。2番目の子の時なんか、3か月したら、いくら搾つても出なくなつて。だから、お米の汁にちよこつとサツカリン(砂糖の代用)入れて、指で舐めさせたり。食べたいけど、食べられない。食べさせたいけど、食べさせられない。食べ物の苦しみて忘れられないな。

自分たち親子のお金は、お正月にまとめて500円ももらったの。1年間で500円だから、子どもに新しい服を着せてあげたいときは、何十円かで布を買つて作っていたけれど、自分で自由になるお金が欲しくて、25歳から商いを始めたんだ。

自ら暮らしをつくりだす。

最初は、自分で作ったキャベツを背負つて、二ツ井の町の家を一軒一軒回つたよ。「ごめん



愛猫のシャムちゃん、11歳。



家の鴨居には、山での戦利品＝舞茸の写真が所狭しと飾られている。



市日にも出す野菜を育てる畑を案内してくれた。

こやま・みちさん●昭和12年、端家生まれ。農家、山の名人。25歳で市日に初出店して以来、自身で育てた野菜や、山菜、キノコ、加工品の販売を続けている。お客さんの声を聞きながら、求められる味や育て方を探求している。

とんじこんじ抄

お題を出して面白おかしく応える落語。同じ問かけなのに、予想を裏切る答えでお客を楽しませる。旧かもや食堂の改修プランを決める公開審査会に進む挑戦者たちが決まりました。建築は見えないものを形にする挑戦です。私たちのお題から多彩な物語が出揃いました。藤里の新しい楽しみ方を是非。(シャケ)

編集後記

すっかり寒くなってきました。食欲の秋ですが、食べすぎに気をつけたいです。(藤原)